

1. 2017年度報告

1. 教育・研究のグローバル化推進

- ・ Vision150 教員増支援枠により、文化構想学部の英語学位プログラム「Global Studies in Japanese Cultures Program (JCulP: 国際日本文化論プログラム)」を担当する専任教員 2 名を嘱任 (2017 年 9 月。別に専任教員 1 名を 2016 年 9 月に嘱任済)
- ・ Vision150 教員増支援枠により、大学院文学研究科・文学部「中東・イスラーム研究コース」を担当する専任教員 2 名を嘱任 (2017 年 4 月)
- ・ Vision150 教員増支援枠により、大学院文学研究科「国際日本学コース(Global Japanese Literary and Cultural Studies, 略称 Global-J)」を担当する専任教員 1 名 (コロンビア大学大学院卒) を嘱任決定 (2018 年 9 月予定)
- ・ UCLA 上級准教授 1 名を 2018 年度よりジョイント・アポイントメント制度 (以下、「JA」と略) による任期付准教授とすることについて協定締結
- ・ 南カリフォルニア大学准教授 1 名を JA による任期付准教授とすることについて協定締結
- ・ コロンビア大学准教授 1 名を JA による任期付准教授とする協定締結にむけて交渉実施
- ・ 訪問教員の委任契約継続によりコロンビア大学教授 2 名、UCLA 上級准教授 1 名をプロジェクトリーダーとして採用
- ・ 客員研究員の契約継続によるプロジェクトメンバー 1 名を採用
- ・ 訪問研究員の委任契約継続によりプロジェクトファシリテーター 1 名を採用
- ・ 本学術院教員 1 名を集中講義・研究指導のためスタンフォード大学に派遣
- ・ 本学術院教員を英語学位プログラム(JCulP)の留学プログラム視察として派遣 (北米および欧州)
- ・ カイロ大学、デ・ラサール大学、エジンバラ大学講師らを招聘講師として招き、文学部中東・イスラーム研究コースや大学院文学研究科中東・イスラーム研究コースにおいて授業を行った。

2. 学生交流

- ・ UCLA-Waseda ビジティング・プロフェッサーシップ・プログラムによる研究者の派遣
- ・ UCLA-Waseda リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の派遣
- ・ Waseda-UCLA リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の受入
- ・ コロンビア大学とのダブルディグリー・プログラムによる大学院生の派遣決定
- ・ 文化構想学部の英語学位プログラム(JCulP)の JS 学生を必修科目(Summer Session)により短期留学派遣

3. 研究関連国際イベントの開催

- ・ 本学にてシリア人劇作家の講演会を開催 (4 月)
- ・ UCLA にて野村万作氏・野村萬斎氏等による狂言公演ならびに国際シンポジウム・ワークショップ「Five days of Kyogen」を開催 (5 月)
- ・ 本学にてコロンビア大学教授による講演会「Kurosawa's Rashomon」を開催 (6 月)
- ・ 本学にて中村京蔵氏による講演・朗読劇「シェイクスピアの上演と翻訳」を開催 (7 月)
- ・ 本学にてコロンビア大学准教授と本学術院教授による対談形式の講演会「人文学は生き残れるか? - Will the HUMANITIES Survive?」を開催 (7 月)
- ・ 本学にて「日本「文」学史 第 3 回ワークショップ 「文」から「文学」へ - 東アジアの文学を見直

す」を開催(7月)

- ・本学にてアカデミックリーダーセミナーとして多和田葉子氏の講演会「雄猫から二日酔いへー言語とアイデンティティー」を開催(8月)
- ・本学にて伊藤比呂美氏による講演会「第1部:アメリカと私、『日系』人としての私」「第2部:ライブ!人生相談万事OK」を開催(8月)
- ・本学術院教員をブリティッシュコロンビア大学でのワークショップ「LITERARY PRODUCTION AND LANGUAGE POLITICS IN POSTWAR JAPAN」に派遣(9月)
- ・本学にてエジプト人映画監督を招聘しての映画上映と講演会を開催(9月)
- ・バーミンガム大学にて国際シンポジウム「蜷川シェイクスピアをめぐって」を開催(10月)
- ・UCLAにて是枝裕和監督を招聘した映画上映・国際ワークショップ「Hirokazu Kore-eda Retrospective Cinema from the Outside In」を開催(10月)
- ・本学にてシリア人映画監督を招聘しての映画上映と講演会を開催(10月)
- ・本学にて「Global Studies in Japanese Cultures Program(国際日本文化論プログラム)」設立記念シンポジウム「グローバル化する日本文化」を開催(11月)
- ・本学にてヨーク大学講師による講演会「Shakespeare and Citizenship Education in Japanese Higher Education」を開催(1月)
- ・本学にてハーバード大学助教授による講演会「What is an Author in Early Modern Japan? Answers from the pages of Illustrated Fiction」を開催(1月)
- ・本学にてロバート・キャンベル国文学研究資料館長および若手研究者による国際ワークショップ「国際検閲ワークショップ」を開催(1月)
- ・本学にてオックスフォード大学准教授によるワークショップ「翻訳・翻案・訓読からみる東アジア」を開催(1月)
- ・本学にて欧州・米国・中国・韓国・台湾・日本の研究者による国際シンポジウム「人文学の危機とは何か」を開催(2月)
- ・コロンビア大学にて国際ワークショップ「Japanese Theatre, Publishing Culture, and Authorship」を開催(3月)
- ・UCLAにて国際ワークショップ「Technologies of East Asian Performance」を開催(3月)

4. 国際共同研究の成果

- ・プリンストン大学教授、シカゴ大学教授らとの共同研究の成果として共編著“The Politics and Literature Debate in Postwar Japanese Criticism, 1945-52 (New Studies of Modern Japan)” (Lexington Books) を刊行
- ・UCLA との共同研究として「変体仮名あぶり」の拡張機能を追加、また新しく「くずし字あぶり」開発に着手

5. 学術院の改革

- ・文学研究科「中東・イスラーム研究コース」を開設
- ・文学部「中東・イスラーム研究コース」を開設
- ・文化構想学部英語学位プログラム「Global Studies in Japanese Cultures Program (JCulP: 国際日本文化論プログラム)」を開設
- ・大学院文学研究科「国際日本学コース(Global Japanese Literary and Cultural Studies, 略称 Global-J)」の入試を実施

- ・文化構想学部・文学部の入試で、英語 4 技能入試を導入
- ・文化構想学部・文学部で「副専攻制度」を導入
- ・文化構想学部・文学部の一部科目でクォーター制度を導入
- ・文化構想学部・文学部における外国語科目改革を決定（2020 年度施行）
- ・文化構想学部・文学部における選択英語科目の見直しを決定（2020 年度施行）
- ・大学院改革に向けて検討を開始・新コース開設手続きを決定

6. 制度・仕組の創設

- ・テニユア・トラック制度の導入を決定。制度導入後初めての適用として、Vision 150 教員増支援枠による講師（任期付）1 名の採用を決定。
- ・JA を適用した教員との契約を締結。

7. 連携の模索

- ・全学的に推進しているバーミンガム大学との連携にシェイクスピア研究分野で貢献
- ・スタンフォード大学との連携強化に向けて協議を実施
- ・ヨーロッパとの協力体制の構築・強化を目指し、イナルコ、パリ・ディドロ大学との協議を実施
- ・カイロ大学との間で、中東・イスラーム研究に関する研究交流（カイロ大学教授の招聘、本学からの教員派遣）を行っている。
- ・ボン大学との間で、中東・イスラーム研究に関する研究交流（本学からの教員派遣）を行った。

8. その他

- ・SGU 国際日本学拠点の分野拡大の一環として、歴史、英文学、パフォーミング・アーツ、メディアの 4 分野のプロジェクトリーダーを選出
- ・オンライン・ジャーナル（Waseda RILAS Journal）の発行をはじめ、英語論文を掲載し海外発信力を高めた。
- ・常勤嘱託 1 名の雇用を継続
- ・専門嘱託 1 名の新規雇用を決定（2018 年 4 月）

2. 2018年度計画

1. 教育・研究のグローバル化推進

- ・ Vision 150 教員増支援枠により、大学院文学研究科「国際日本学コース(Global-J)」を担当する専任教員 1 名（コロンビア大学大学院卒）を、文学学術院初のテニユア・トラック制度にて嘱任（9月）
- ・ コロンビア大学教授 2 名を訪問教授として継続嘱任
- ・ UCLA 上級准教授 1 名を JA による任期付准教授として嘱任
- ・ 南カリフォルニア大学准教授 1 名を JA による任期付准教授として嘱任
- ・ コロンビア大学准教授 1 名を JA による任期付准教授とする協定の締結
- ・ 世界的に著名な作家 1 名を訪問教員嘱任予定
- ・ 本学術院教員 1 名を、教育・研究の連携のため UCLA に派遣

2. 学生交流

- ・ UCLA-Waseda ビジティング・プロフェッサーシップ・プログラムによる研究者の派遣
- ・ UCLA-Waseda リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の派遣
- ・ Waseda-UCLA リサーチ・フェローシップ・プログラムによる大学院生の受入
- ・ Waseda-UCLA トラベル・アワード・プログラムによる大学院生の受入
- ・ コロンビア大学とのダブルディグリー・プログラムによる大学院生の派遣
- ・ 文化構想学部の英語学位プログラム(JCuIP)の JS 学生を必修科目(Summer Session)により短期留学派遣
- ・ 文化構想学部・文学部における短期・クォーター留学による単位認定を計画

3. 研究関連国際イベントの開催

- ・ 連携校／本学において国際シンポジウム、国際ワークショップを開催
- ・ 中東・イスラーム研究に関する国際会議を開催

4. 国際共同研究

- ・ プリンストン大学教授、シカゴ大学教授らとの共同研究の成果として共編著 “Literature Among the Ruins, 1945-1955: Postwar Japanese Literary Criticism (New Studies in Modern Japan)” (Lexington Books) を刊行

5. 学術院の改革

- ・ 大学院文学研究科「国際日本学コース」(Global-J)の開設（9月）
- ・ 文学部中東・イスラーム研究コースの進級者受入開始
- ・ 大学院改革に向けて検討を継続（新コース開設のための手続き開始）

6. 制度・仕組の創設

- ・ 導入したテニユア・トラック制度を適用して、Vision 150 教員増支援枠による講師（任期付き）1 名を雇用開始し、同制度を運用開始
- ・ JA 制度を適用した教員を雇用し、教育・研究のグローバル化の最大効果を狙う

7. 連携の模索

- ・バーミンガム大学と連携した学術活動を実施
- ・スタンフォード大学との連携強化に向けて協議を継続
- ・ヨーロッパとの協力体制の構築・強化を目指し、イナルコ、パリ・ディドロ大学との協議を継続
- ・中東・イスラーム地域との短期留学プログラムの構築を模索

8. その他

- ・常勤嘱託 1 名の継続雇用
- ・専門嘱託 1 名の新規雇用
- ・MOOC の検討再開
- ・英語学位プログラム (JCulP) 海外学生のリクルート実施

以上